

地域とともに、地域のために

もっと知ろう！建設業のこと！3

地方の建設業は、地域の雇用・経済を支えるとともに、災害時の迅速な生活インフラの復旧工事など住民の安心・安全な生活を守っています。縁の下の力持ちとして地域貢献する建設業にスポットを当てて紹介するシリーズの3回目となる今回は、災害対策です。

災害発生時の迅速な初動 緊急車両の進入路確保



建設業は防災対策や災害復旧活動といった人々の命を守るという重要な役割を担っています。災害発生時に土砂崩れや倒木などで道が寸断された場合、緊急車両が通行できず、救助者を搬送することができません。そこで、地元の地理を熟知し、障害物を取り除く重機と技術者を持ち、緊急時に迅速に対応できる地域の建設業が活躍するのです。災害時は一分一秒を争うため、適切で迅速な初動体制が求められます。そこで建設業者は、建設業者間や行政と災害協定を結び、どのように応急対応するのかを定めています。災害対応の流れでは、第一に行政の出動要請を受けた建設業者が災害発生地に向かい、被害状況を報告。続いて、資材や人材を派遣し、道路などの応急活動を行います。

土砂災害危険箇所 島根が全国2位

2013年夏に島根県西部を襲った豪雨災害の時も、地元の建設業者が連携し、迅速な応急・復旧工事にあたりました。鹿足建設業協会は、崩落や土砂崩れで通行止めになった津和野町の県道萩津和野線の工事に24時間態勢で取り組み、住民の避難経路確保につなげたことなどが評価され、島根県から表彰を受けています。国土交通省によると、土石流危険渓流、地すべり危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所などの土砂災害危険箇所は、広島県が3万2千カ所で全国1位、島根県は2万2千カ所で全国第2位となっています。日ごろからの防災・減災対策などのハード対策と自主防災組織などによる防災訓練や防災意識の高揚などソフト面での取り組みが重要になっています。

企画・制作 山陰中央新報社
協力 島根県建設業協会

「建設業」地域を守るお矢口さん

県西部豪雨災害

「住民のため」業者連携

2013年7月28日未明、津和野町の名賀観測所の1時間雨量が午前6時台に

92ミリ、同3時～11時に411ミリを記録する集中豪雨になりました。同町の住宅被害は全壊5戸、半壊8戸、床上浸水6戸、床下浸水92戸。名賀地区で1人が行方不明になりました。その際、即座に現場に駆けつけ、土砂崩れの復旧や行方不明者の捜索に協力したのは地元の建設・土木業者でした。



現場の応急人命救助 建設業者が真っ先に

技術校でさまざまな資格を取得し、その資格を生かせる仕事が建設業だと思い、この業界に進むことにしました。また、入社してからも車両系の資格などを取らせていただいている。おかげで仕事の幅も広がり、さらに自分の可能性を広げていきたいと考えられるようになりました。経験年数は1年とまだ未熟ですが、今後も学んできたことをしっかりと役立てながら実務経験を積んで地域に貢献していきたいです。

地域を守る人

開盛建設 株式会社
土木部
村上 大輔さん
27歳 入社2年目



幼少の頃、学校帰りなどに父や祖父のいる事務所で遊んでいたことから、いつかは自分もこの会社で働くことを、大学で建設について学び、昨年入社しました。現在は、ほ場整備の工事に携わっています。地域の方々がこれから先利用していくものを作り上げていくことは、責任の重いことではあります。同時に誇らしいことだと考えています。これからも日々努力を惜しまず、地域社会に貢献できるような技術者になりたいと思います。

日発建設 有限会社
土木部
山崎 一樹さん
19歳 入社1年目



技術校でさまざまな資格を取得し、その資格を生かせる仕事が建設業だと思い、この業界に進むことにしました。

また、入社してからも車両系の資格などを取らせていただいている。おかげで仕事の幅も広がり、さらに自分の可能性を広げていきたいと考えられるようになりました。経験年数は1年とまだ未熟ですが、今後も学んできたことをしっかりと役立てながら実務経験を積んで地域に貢献していきたいです。

地域の声

津和野町商工会
会長 椿 康隆さん



昨年の7.28大水害は、経験した事のない未曾有の天災でした。JR山口線や名賀川等が裁断され、先祖より大切に守り継承してきた田畠がまたたく間に瓦礫の地と化しました。まさに「愁嘆場」であります。そうした状況の中、間髪を入れず、建設業者の方々が昼夜をわかつらず、流汗淋漓して復旧復興作業をされている姿を見て、感涙にむせびました。私ども前に進むべく「頑張らねば」と強く決意しております。

津和野高校3年
石本 千晶さん



2年前の豪雨災害のとき、私はもう以前の名賀の姿は見られないだろうと思いました。しかし、すぐに建設会社の方々による復旧工事が始まりました。土砂や倒木で覆われ無残な姿だった名賀が、少しずつ元の姿に戻りつつあります。私にとって、建設業は大切なふるさとを取り戻してくれる恩人のようになります。工事に携わっておられる方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

津和野町
白井・木尾谷自治会長



昨年の記録的豪雨の時は、一時孤立状態となり防災ヘリで救助されました。土砂で埋もれた道路や畠など悲惨な光景は忘れられません。そんな中、工事関係者によって、寸断された集落に臨時道路が通った時は助かりました。また、全壊した集会所も、大工さんらのおかげで再建することができ、地域の憩いの場になっています。しかし、いまだに泥に埋もれた田畠などがあります。完全復旧に向けて引き続き頑張っていきたいです。